

国語教育 相談室

小学校

No.59

国語教育相談室
No.59

光村図書

実践提案

特集

「国語力」を高めるための 年間指導計画のヒント



この言葉がすき 一青窈



巻頭エッセイ

教えること、教わること。

小泉清裕



連載 わたしの国語教室 若い先生たちへのエール

連載

一寸苦言

漢字字典を使った、言葉を広げる指導 一人一冊 手元に置いて読む・調べる

集中
連載

子どもを伸ばす国語授業のヒント

連載

書写

書写の時間を楽しく

単元の流れを工夫して、日常に生きてはたらく力を

書写ってこんなにも面白い！

書写の要素 字形…内外の組み立て方のポイント④

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.113 定価126円(税込)

2007(平成19)年1月15日発行

発行人=常田 寛

発行所=光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話03-3493-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所=村田印刷工業株式会社

デザイン=秋葉 幹司

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

この言葉がすぎ 窈窕 一青 窈

巻頭エッセイ 教えること、教わること。 Y 大先生 小泉清裕

実践提案

特集 「国語力」を高めるための 年間指導計画のヒント



実践提案 ①

国語科と生活科の関連を図って、「話す力・聞く力」を育む(1年)..... 新しい指導を考える会

実践提案 ②

一年を見渡せる学年暦で国語力を身につける計画を立てる(2年)..... 新しい指導を考える会

寄稿

モンゴル人とペアを組んで「スーホの白い馬」の発展的学習に取り組む..... 柏村 茂

集中連載 — さあチャレンジ！ 子どもを伸ばす国語授業のヒント ③

わかりやすく、学習の見通しがもてる発問を..... 岩崎 保

連載 — 一寸苦言

漢字字典を使った、言葉を広げる指導

一人一冊 手元に置いて読む・調べる 一徹国語人

連載 — わたしの国語教室 15 若い先生たちへのエール

授業の導入は..... 吉永幸司

✎ 書写の時間を考えよう

連載 — 書写の時間を楽しく ③

単元の流れを工夫して、日常に生きてはたらく力を(6年)..... 新しい指導を考える会

連載 — 書写ってこんなにおもしろい！ ②

書写の要素 字形…内外の組み立て方のポイント④ 宮澤正明

光村図書既刊本のご案内

光村チャンネルからのお知らせ

お知らせ・編集後記

窈窕

ようちょう

私はよく本名かと尋ねられます。

一青は石川の能登半島にシトトという鳥が由来の地名があります。

名前は父が付けてくれたと聞きます。

なにはともあれ、まずパソコンで「窈窕」と打ってください。

穴冠に幼いと書きます。「窈窕たる淑女」というように使いますが

本来の意味は山水・宮殿などの奥深いさまや、女性の奥ゆかしいさまを言います。

その度に自分の名前の美しさに負けないように、両親の想いをなぞれるように

たおやかでありたいと願って止みません。

詩を考えるときに曲名、つまりタイトルを考えるときに肝だといつも思っていて

その言葉の意味をまず探るところから私は始まります。

そしてそこから語源や伝説を紐解いて

自身の経験や感動に結びつけて詩〓物語を書きます。

実感と創造の連続性において、人の心に一番響く言葉をいつも模索しています。

日本語には本当に美しい言葉がたくさん存在していて

そのどれもが私を魅了してくれます。

中国語には中国語のおもしろさ、英語には英語のおもしろさ

どの言語も秘密がいっぱい閉じ込められていて

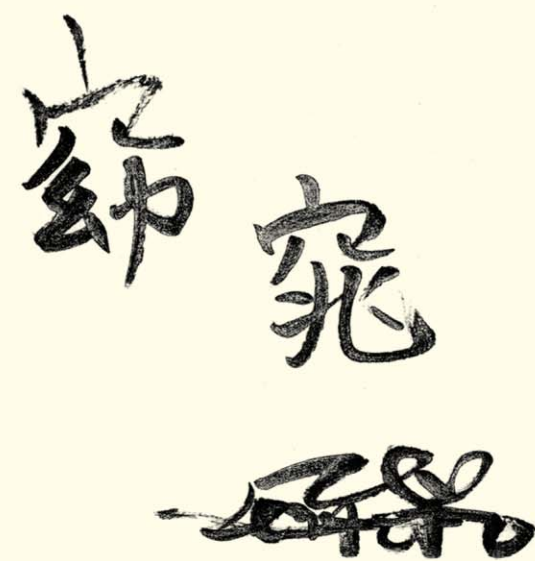
私は新しい組み合わせを考えたり、すでにある言葉の由来に驚いたり、

知らない言葉と出会うことにわくわくしたり、

言葉の限界と広がりを毎日楽しんでます。

伝えたい人が居て、伝えたいことがあつて

だから私は今日も言葉を愛して、人を愛しているのだと思います。



一青 窈 歌手

ひととよう

1976年9月20日東京生まれ。台湾人の父と日本人の母の間に生まれる。台北で幼稚園を卒業後、日本で生活。慶應義塾大学環境情報学部(SFC)卒。大学時代にはアカペラサークルでストリートライブも行う。2002年「もらい泣き」でデビュー、2004年には台湾の巨匠、ホウ・シャオシェン監督による、映画「珈琲時光」初主演、「ハナミズキ」のロングヒットと、活躍の場所を広げる。すべての作品の作詞を手がけ、今までにシングル8枚、アルバム3枚を発表。2005年発売した3枚目のアルバム「&」に続き、2006年11月29日には初のベスト盤「BESTYO」を発売。



Y大先生

昭和女子大学附属昭和小学校教頭 小泉 清裕

Y大先生に出会ったのは、私が大学院で学んでいた時である。この時Y大先生はすでに六十歳を過ぎていただろう。Y大先生の授業は金曜日の午後一時から開始されたが、規定の終了時刻はなかった。強いて言えば、Y大先生が帰宅する終電車の十五分ほど前が、その日の終了の時刻だった。もちろん、Y大先生がその時刻まで授業をすることを望んでいたわけではなく、私たち数名の学生がその日の課題を完成すればいつでも終わることができた。

しかし、その課題は先生が一週間かけて準備してきたものであり、もう少し長く学生時代を謳歌^{謳歌}したくて大学院に進んだ私のような学生にとって、決して歯が立つような課題ではなかった。私たちが辞書をめくりながら苦心^{苦心}惨憺^{惨憺}している時に、Y大先生は黒板の前にある椅子に腕

を組んで座り、私たちの課題の終了を、何もしないでただじっと待ち続けていた。夕食も食べずにひたすら待ち続けていたのだ。

終電車の時刻になり、やむなく解散して帰宅した後、真夜中にY大先生から「私はこれから寝るから、答えが出ててもう電話をしないほしい」という電話がかかってきたことがある。どうもY大先生は、とくに日付が変わってから帰宅した後も、私たちが課題に取り組み続けていると思っていたのだろう。後でわかったことだが、Y大先生は帰宅後電話の前に正座して、私たちからその日の解答が来るのを待っていたそうである。Y大先生から電話がかかってきた時、当然のことながら、私はすでに布団に入ってしまったと眠っていた。

ある日、私鉄各社がストライキを行い、当

然、授業はないものと私は信じて自宅にいた。その時、Y大先生が教室で学生を待っていると電話連絡が助手の一人から入った。電話の直後にあわてて大学に向かったことを覚えていた。Y大先生はストライキを行っていない路線の駅まで一時間以上歩き、その駅から大学までやってきたのだ。

また、ある時、Y大先生は駅で電車に乗りうとした際、うっかり靴を電車とホームの間の溝に落としてしまい、靴がぬれてしまったことがある。なんとY大先生は、片方の足には靴を履き、もう片方の足には駅で借りたサンダルを履いて教室にやってきた。授業に間に合わなくなるので、新しい靴を買ってくる時間がなかったと言っていた。

私はY大先生を「天才」と呼ぶに値する人の

一人だと思っている。Y大先生は、誰でも一度読んだ文章は覚えるものと疑わなかったし、人が話したことやニュースになった出来事は事細かにすべてを記憶しているものと信じていた。そして、Y大先生自身はまさしくそれをしていた。ことばだけでなく、大好きな中日ドラゴンズの歴代の打者の終世打率やピッチャーの勝利数など、数字についても極めて正確に覚えていた。そして、誰もが自分と同じだと信じて課題を用意していたのだ。

私は、大学、大学院時代に、Y大先生以外にもたくさんのおられた、尊敬する先生に出会うことができた。しかし、Y大先生ほど、「教えること」にこだわった先生はいなかった。大きな辞書がすっぽりと頭の中に入っているような、あれだけの知識があるならば、その知識を本にして後世に残す仕事をするべきだったはず、悠悠自適に自分の時間を持つてもよかったはずである。

それなのに、Y大先生は「教えること」に終始した。そして、授業をしているのだから、本など書いている間はないと説明していた。本として残さないならば、誰かの頭に電極でもつけて、その知識を転送しておくことはできないだろうかと私は真剣に考えた。もちろん私の頭ではデータが膨大すぎて、入ることは不可能である。

すでにY大先生の授業を受けてから三十年以上が過ぎた。時々、今でも金曜日になると、Y大先生の当時の姿とともに、課題が終わらない失望感、Y大先生の期待に添えないもどかしさ、そして、物理的な体の疲れなどが混じった、情けない自分の姿を思い出す。それでも当時は必死になって課題に取り組んでいた。しかし、Y大先生が課題として出してくれたものが何であつたか、残念ながら今ではほとんど覚えていない。

Y大先生が授業を通して私に教えてくれた最大のことは、「教えること」とは何かということである。そして、「教わること」とは単に知識や技術の習得だけでなく、その奥にある、教える人の願いや情熱を感じること、すなわち、教える人の「心」に触れることだということも同時に教わった。

Y大先生との出会いが私を教師の道に進ませ、そして、先生への恩返ししの気持ちを含めて、今、目の前にいる子どもたちと向かい合っている。



小泉 清裕（こいずみ きよひろ）

1951年、山梨県生まれ。英語教師として幼稚園から大学まで幅広い指導経験をもち、現在も幼稚園、小学校、大学で教鞭をとっている。NHK教育テレビ『スーパーえいごリアン』企画委員。日本児童英語教育学会（JASTEC）副会長。光村図書中学校英語教科書『COLUMBUS 21 English Course』、小学校英語活動用テキスト『JUNIOR COLUMBUS 21』編集委員。

国語科と生活科との関連を図って、「話す力・聞く力」を育む（一年）

新しい指導を考える会

1 はじめに

低学年の生活科では、熱中したことや思わぬ発見をしたこと、成功したことなどの喜びが、「伝えたい」という表現への意欲につながるが多い。このようにして生まれた表現への意欲を生かし、国語科として「だれに、なんのために、何を、どのように伝えるか」を指導することによって、表現力の確かな向上を期待することができる。

ここで紹介するのは、生活科との関連を図った、一年生の「話すこと・聞くこと」の国語科学習である。年度当初に年間指導計画を立てる際、生活科との関連を図ることで、年間を通して国語科の内容を螺旋的・反復的に指導する単元が設定できる。一つ一つの単元を通して、「話す力・聞く力」が段階的に身につくように、以下の点に留意して学習を構想した。

・前単元の学習内容・方法を次単元につなげる。
・話す事柄を増やしたり選んだりできるようにして、事柄の順序を考える必要性を高める。

・話型とともに、実物、絵、写真、動作などの活用も示し、話題に合わせた話し方への意識を高める。

2 実践

（1）四月単元「どうぞよろしく」―自己紹介する―

生活科「学校となかよし」と関連を図った単元である。入学したばかりの子どもは、「学校のことを知りたい。」「友達をたくさんつくりたい。」という思いから、「自己紹介をしたい。」という思いをもつようになる。そこで、国語科に「自己紹介」という活動を設定した。

ア 単元目標

○友達に自分のことを知らせたいという思いをもって話したり、友達のことを知りたいという思いをもって聞いたりしようとする。

○名前、好きなものなど紹介する事柄の順序に気をつけ、聞いている友達の方を見て、絵を見せながらはっきり話す。

○友達の名前、好きなものなど、大事なことを落とさないように聞く。

イ 単元の流れ（三時間）

○話すときと聞くときのめあてをつくり、紹介する事柄や順序を考え、話す練習をする。（二時間）

○自己紹介したり、友達の自己紹介で分からないことやもっと知りたいことを質問したりする。（二時間）

ウ 主な指導の手だて

①カードの掲示

事柄の順序に気をつけて話すことができるように、紹介する事

（2）六月単元「たんけんしたよ みつけたよ」

―調べて分かったことを報告する―

本単元も、生活科「学校となかよし」との関連を図った。入学したばかりの子どもは、「学校はどんな所だろう。」「学校のことを知りたい。」という思いから学校探検を始めるうちに、「知りたい。」という思いが、「知らせたい。」という思いに変わった。そこで、国語科として「探検して分かったことを報告する」という活動を設定した。

ア 単元目標

○探検して分かったことについて、興味をもって話したり聞いたりする。

○探検した場所の名前、位置、利用目的などの事柄の順序を考え、聞いている友達のほうを見て、画面に映し出した絵を指し示しながらはっきり話す。

○探検した場所の名前や位置、利用目的など、大事なことを落とさないように聞く。

イ 単元の流れ（四時間）

○話すときと聞くときのめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。（二時間）

○報告する場所を決め、話す事柄や順序を考えて話す練習をする。（二時間）

○探検して分かったことを報告したり、友達の報告について分からないことやもっと知りたいことを質問したりする。（二時間）

ウ 主な指導の手だて

①カードの掲示

事柄の順序を考えて話すことができるように、そして大事な

柄やそれぞれの事柄の話型を示すカードを作成して掲示した。子どもには、練習や実際の自己紹介のときに、必要に応じてカードを見て話すといふことを助言した。また、友達の自己紹介を聞くときには、カードで示した事柄に気をつけて聞くように助言した。

なまえ

わたしの なまえは、○○です。

すきなもの

すきな ○○は、□□です。

すきなわけ

―だから すきです。

（掲示したカード）

②絵の活用

どのような事柄を紹介するとよいか話し合っていると、「自分の名前」の次に、すぐ「すきなもの」が挙げられた。そこで、本単元の前に図画工作科でかいた絵「わたしのすきなもの」を活用することにした。話す事柄を明確にして自信をもって話すことができるように、また、友達に分かりやすく伝えることができるように、絵を示しながら話すといふことを助言した。

エ 子どもが紹介した内容例

・ぼくの名前は、―です。すきなものは、宝石です。宝石は光ってて、大きいです。宝石は、すきとおってて、光るからすきです。

・わたしの名前は、―です。妹が大きいです。かわいいから大好きです。妹と遊ぶのが楽しいです。

実践提案 ①

実践提案 ②

ことを落とさずに聞くことができるように、事柄とその話型を示すカードを掲示した。

ばしよの なまえ

ここは ○○です。

どこに あるのか

△△に あります。

なにを するところか

ここは、— する ところ です。

ここは、— に つかいます。

ある もの

なかには、□□が あります。

おもった こと

わたしは、…と おもいました。

(掲示したカード)

②OHCの利用

子どもたちは、探検の際に、見たことや聞いたことなどを絵と言葉でノートに書き留めていた。そこで、この絵と言葉を示しながら分かりやすく話すことができるように、OHCを利用した。画面に映し出された絵と言葉を、話の事柄に合わせて指し示しながら話すというのを助言した。

エ 子どもが報告した内容例

・ここはふれあい館です。二階の体験館の近くにいます。つばがあつて、昔遊びとかに使う部屋です。ふれあい館に入ったときに、古いおうちみたいだなあと思いました。

・ここは保健室です。一階の職員室の近くにいます。けがを

ウ 主な指導の手だて

①カードの準備

どのような事柄をどのような順序で話したらよいか、子どもとともに話し合って確認した。そして、話し合ったことを踏まえ、話す事柄が書かれたカードを準備した。事柄を選んだり事柄の順序を考えたりするときに、前述の「どうぞよろしく」や「たんけんしたよ、みつけたよ」では、全体で共通の掲示するカードだったが、本単元では、子どもによって話す事柄や事柄の順序がさまざまなので、自分で選択できるよう、事柄別に色分けしたカードにした。

話す事柄を考えたときには、カードを並べて話しながら順序や内容を考えてよいこと、事柄の順序を変えて話してみると分かりやすい順序が見つかることを助言した。練習や本番では、カードを持って話す、掲示して話す、カードなしで話すなど、自分に合う方法を選択するようにした。

人や ものの なまえ
どんな ものや 人か (ようす)
どうして
いちばんの なかよし か
どうやって
なかよしに なったか
なかよしに なって
おもった こと
どうやって
もっと なかよしに なるか

※このカードの中から選択する。

(準備したカード)

したときとか具合が悪くなったときに使う部屋です。保健室に入ったとき、薬のにおいがして病院みたいだなと思いました。

(3)二月単元「見てね、きいてね、わたしのなかよし」

— なかよしになった人やものを発表する —

生活科「もともとなかよし」との関連を図った。この時期には、全校の子どもや保護者、地域の方に向けて、生活科と総合的な学習の時間の学習の成果を発表する場が設定されている。そこで、自分の「なかよし」への思いの高まりをとらえ、「なかよしになった人やものを発表する」という活動を設定した。

ア 単元目標

○一年間の自分の活動を振り返り、なかよしになった人やものについて、友達や保護者、地域の方に知らせたいという思いをもって話そうとする。

○なかよしになったものや人の様子、これまでのかかわり方や今後のかかわり方などの話す事柄を選び、順序を考えて話す。

○聞いている人の方を見て、実物や写真や絵を示したり動作を入れたりしながら、はっきり話す。

イ 単元の流れ(三時間)

○話すときのめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。

○発表して伝える「わたしのなかよし」を決め、話す事柄や順序を考える。 (二時間)

○話の内容別グループで練習する。 (二時間)

※発表の時間は、生活科として二時間をとる。

②実物、絵や写真、動作の活用

話す内容がさまざまなため、子どもによって分かりやすく話す方法も異なってくる。内容に合わせて、実物を見せたり、絵や写真を見せたり、地図を指し示したり、動作を入れたりするなどの工夫をするように助言した。

エ 子どもが発表した内容例

・わたしがいちばんになかよしになったのは、ダンゴムシです。(※絵を指し示す) この、もうちよつと左のこつちのころの(※地図を指し示す)木がある日かげで見つけました。色は黒で、お父さん指とお母さん指をちよつと離れた(※親指と人さし指を近づけて大きさを示す)ダンゴムシを見つけたんですけど、もうちよつと離れた(※親指と人さし指を近づけて大きさを示す)ダンゴムシも見つけました。色は黒で、ダンゴムシの目の形は、ちよつとごまみたいな小さい丸い形です。さつきのこれぐらいの(※指で大きさを示す)大きいダンゴムシの背中に、黄色いぶつぶぶがあつて、□□さんに、「それはなあに。」ときいてみたら、「それはメスのダンゴムシだよ。」と教えてくれて、ダンゴムシのことを知ってとてもうれしかったです。

3 おわりに

生活科での対象への豊かなかわりが表現意欲を生み、表現内容を充実させる。そして、国語科での表現内容や表現方法の吟味が、対象へのかかわりのよさへの気付きや次のかかわりを生む。こうした相互作用のある関連を図る学習を、今後も探っていききたいと思う。



	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年行事	1年生を迎える会	創立記念日 運動会	開港記念日 交通安全教室	図書館開放		終業式・始業式 ふれあい遠足	ふれあいまつり	人権授業	カルタ大会	健康教育	6年生のお別れ会 入学式準備
学級活動(1)	ようこそ1年生 かかりをきめよう	うんどう会をもち あげよう	雨の日のすごし方 をかんがえよう	お楽しみ会をひら こう	お楽しみ会のけい かくを立てよう	えん足のじゅんぴを しよう	楽しいふれあいまつり ようちえんの子を しょうたいしよう	学年ドッジボール 大会をひらこう	お正月あそびをし よう (カルタ大会をしよう)	がんばったことの はっぴょう会	6年生ありがとう おわかれ会をひら こう
学級活動(2) (1)(2)合計 35時間	みんなのやくそく まもろうよ めあてにむかって	上手にすごせるよ きゅうしょくの時 間	休み時間 こんな ことできるよ 夏休み ○さつかりたよ 図 書室の本	こんなことできる よ夏休み ○さつかりたよ 図 書室の本	べんきょうのやく そく	すきな食べ物 こんな にふえたよ	すきだよ ○○さん のこんなところ	みんないっしょ 男の子女の子 じんけんじゅぎょう	きょうりよくしよ う そうじとうばん	こんなこと言われ たらいやだな けんこうきょういく	こんなことできるよ
道徳 (35時間)	ていねいなことば おもいやり ものをたいせつに	友だちのために みんなのもの すくすくそだて	でん車の中で ありがとうの心 ごまかさないで うつくしいのち	よいと思うことは やさしい心で	かんしゃの気持ちで がんばるぞ あぶない 子犬のことを考えて	友だちの気持ち みんなが使うもの ぼくいきだいの よいことはすすんで	おもいやり つらくても うれしいおたより 気持ちよいあいさつ	うつくしい心 ゆう気を出して しょうじきな心	自分の力で なかよくたすけあ って たいせつないのち	ありがとうの心 ねばりづよく 家の手つだい	大すきなまち うつくしい心
国語 (280時間)	ふきのとう 今週の ニュース	たんぼぼの ちえ かんさつ名人になろう 見たこと、かんじたこと	ともこさんは どこ かな 同じ ぶぶんを もつ かん字	もう すぐ 夏休み スイミー	おおきくなあれ あったらいいな、 こんなもの カンジーはかせの 大はつめい	サンゴの海の生きも のたち お手紙	かん字の読み方 お話がいっぱい	かたかなで書くこ とば 一本の木	いるか 何に見えるかな 音やようすをあら わすことば	なかまのことばと かん字 スーホの白い馬	楽しかったよ、2年生
算数 (155時間)	時計とひょうグラフ 何十の計算	たし算のひっ算 ひき算のひっ算	3けたの数 計算のくふう	形づくり	長さのたんい	たし算とひき算の ひっ算	かけ算(1)	かけ算(2)	三角形と四角形	4けたの数 長いものの長さのたんい	たし算とひき算 2年のふくしゅう
生活	2年生になったんだ ・1年生ってかわ いいね ・学校のことをお しえてあげよう	ぐんぐんそだて ・やさいをそだて よう	生きものをそだてよう ・かい方をしらべてせわをしよう		とびだせたんけんたい ・ちょっととおくへ (○○こうえんに行こう)	生きものをそだてよう ・あきの虫をかおう	あきやさいをそだてよう ・あきにそだつやさいをうえよう ・きゅうこんをうえよう	とびだせたんけん たい ・さむいね ・うめを見に行こう	わたしものがたり ・小さいころのようすをきこう ・1きつの本にまとめよう		
(105時間)		とびだせ たんけんたい ・わたしたちのまち ・たんけんにしゅっぱつだ ・はっけんしたことをみんなに知らせよう			作って楽しもう ・楽しくあそべるゲーム、おもちゃ ・子ども広場の会場をつくろう ・しょうたいしよう			ようこそ○○小へ ・ようちえんの友だちをしょうたいしよう ・プレゼントを作ろう ・ようちえんにしょうたいされたよ			
音楽 (70時間)	歌と友だち ・あの青い空のように ・かくれんぼ ・山びこっこ など	わくわくリズムなかよしドレミ ・かっこう ・かえるのがっしょう ・おまつりわっしょい など	につぼんのうた ・夏だ! ・せみの歌		すてきな音 ・虫のこえ ・森のたんけんたい	気分をかんじて ・小さなはたけ ・ジェットコースター	あそびうためぐり ・ロンドンばし ・こいぬのピンゴ ・やおやおみせ など	どんなようすかな ・こぎつね ・そりすべり など	みんなであわせて ・チャチャマンボ ・ぼくらのマーチ	につぼんのうた ・はるがきた	音楽でお話 ・ブレーメンの音 楽たい (入学式の歌)
図画工作 (70時間)	わくわくドキドキ きって、ひねって つなげると	運動会のはた たいたいのばして なにしよう	ブンブンさんとあ そぼう すてきなようし 見つけたよ	ぶかぶかゆらゆら	ぼかして、見つけて ぼわぼわむくむく	コロコロ大きくせん しぜんからのおくりもの	かみをたてたら、 たのしいことが… よんで、見て見て たのしいえてがみ	あそびのつまった おもしろバッグで	たのしかったね あそんだこと どこにあったの? そのいろいろいい	すきないろはどん ないろ? 空をとんでゆめ のせかいへ	ピコリン村のデバ ートでおかいもの 6年生にプレゼント
体育 (90時間)	かけこ リレーあそび とびばこあそび	運動会ががんばろう ・かけこ ・リズムあそび ・ゲーム	ハンドベースボール マットあそび	うく・およぐうんどう	水あそび てつぼうあそび おにあそび	シュートボール	とびばこあそび ひょうげん・リズムあそび		ようぐを使ったうんどう 力だめしのうんどうあそび		ラインサッカー
国際理解 (6時間)	こくさいりかいきょうしつ ○○先生かんげい会				こくさいりかい きょうしつ				こくさいりかいきょうしつ ○○先生とのおわかれ会		

新しい指導を考える会

一年を見渡せる学年暦で 国語力を身につける計画を立てる (二年)

1 はじめに

どの教科の活動も話したり書いたり読んだりするのであるから、自然と国語力は身に付いていく。しかし、私たち教師は「偶然」ではなく意図的・計画的に、ねらいをもって言葉の力をつけていかなければならない。春休み、学級担任の発表が行われた後の最初の学年会議で、私は、まず簡単な学年暦(学級暦)をもとに、一年間の単元の配列について話し合うことにしている。

2 他教科との関連を図るために国語科の計画を見直す

校長をはじめ職員の共通理解のもとに、教育課程の見直しを年度初めに行うことは、意図的・計画的な指導を行う上で大切なことである。

資料1は、年間指導計画の単元名・教材名を一枚に整理した学級暦である。年間指導計画としては簡略なものであるが、一枚の紙にまとまっているところに意味がある。各教科の学習内容を相互に関連づける工夫が容易にできるからである。

五月の生活科単元「とびだせ たんけんたい」は、まちに出て、公園や商店街などで身近な自然や物、人、社会にふれる活動である。発見したことを報告する機会が多い二年生の学習の中でも最初に体験するものとなるが、子どもたちは「発見する目」を十分にもたない。また、「発見したことを表現する力」も不十分である。

そこで、下巻の国語教材「見たこと、かんじたこと」を五月に位置づけた。教室にある身近なものを見つめて、発見したことを表現する活動を国語科で扱い、「発見の目」「表現の方法」に気づいてからまちに飛び出すのである。

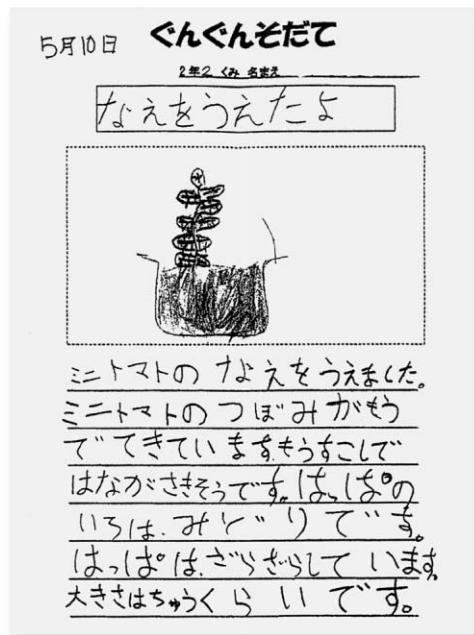
物の動きをとらえる目、物の形をとらえる目をもてば、一つの物から無限の表現が生まれる。静物でさえ多様なイメージを生みだすのであるから、公園探検で虫や動物を見つけたら素敵な発見が期待できるだろう。国語科での二行詩、三行詩作りが生活科の学習カードに生かされ、さらに言葉の力として国語科の学習に返ってくるのである。(資料2)

实践提案 ②

实践提案 ①

3 他教科・領域の中で国語力をつけるための計画を立てる

十一月前後に学校行事（に近い）活動で、「ふれあいまつり」というものがある。内容は生活科を中心としたいわゆる学習発表会である。



▲資料3

ら七月にかけて継続する生活科「ぐんぐんそだて」とは当初の計画から時期が一致しているものである。これらの単元・教材は、観察の方法、観察文の書き方を学ぶ際に関連して指導すること、時間的にも内容的にも効果的な指導を行うことができる。国語科の時間にどのような力をつけるか、生活科の時間にその国語力をどのように伸ばすか、どのように生活「化」させるか。これは、春休み中に想定しておくことのできるものである。(資料3)

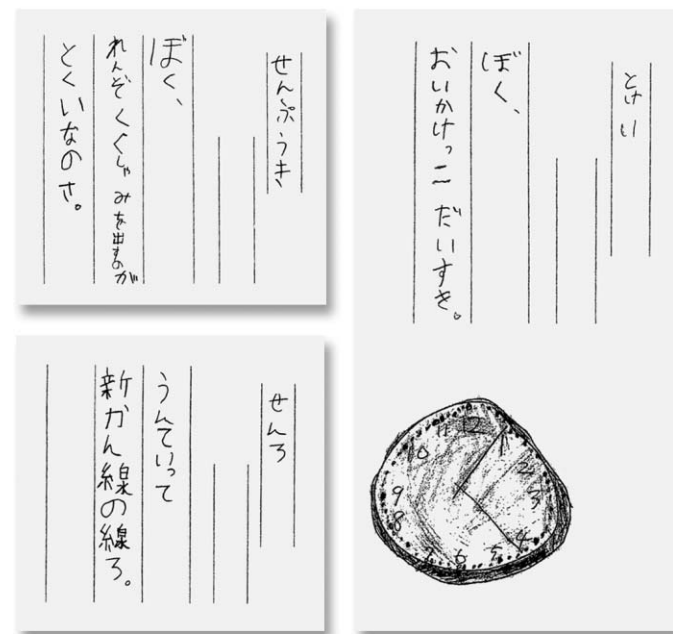
4
おわりに

ここでは、生活科・学級活動を軸に、幼稚園・保育園の子と私たちを招待する活動を盛り込む。生活科で簡単な「まつり会場図」を作成し、学級活動で園児たちへの招待状を書くことにつながることで、子どもなりに工夫した「会場図入りの招待状」が完成する。学級活動の中で「招待状」という表現様式をここで学ぶのである。

ここで身につけた「招待状の様式」は、冬休み後に計画された学校説明会の日に行う幼・保・小交流会の招待状作りで再び取り上げられ、書く力として定着する。

すべての教科を指導する小学校教師は、他校種の教師と比較して、複数教科を関連させて指導することが容易である。この長所を十分に生かし、他教科・領域の中でも意図的に効率よく国語力をつけていく工夫をする必要がある。もちろん、それは国語力だけではない。学年暦（学級暦）などを活用すれば、思考力、判断力、もつと細かく計算力や観察力等に至るまで効果的な計画をすることができるはずである。

一方で、小学校教師は、全教科を受け持たなければならぬために専門的な教科知識・技能をもてないという短所ももっている。だからこそ、年度初めの学年会議で、国語科に通じている教師が国語力について語り、算数に通じている教師は算数力について語り、経験を重ねている教師は全体を見渡して助言し、若い教師は教わりながらも新しい風を吹き込み、一年間の指導の先に見える「夢」を語り合つて現実のものとしていくことが大切だと思ふ。



▲資料2

モンゴル人とペアを組んで 「スーホの白い馬」の発展的学習に取り組む

元横浜市立小学校校長 柏村 茂かしむら しげる

1 外国人とペアを組んでの国際交流活動

平成六年三月に小学校を退職したわたしは、在職中から関係していたボランティア団体に加わりました。この団体では、「国際交流活動」として、日本人と外国人がペアを組んで、依頼を受けた学校などを訪問し、当該国の自然や文化を紹介しています。これまで横浜市を中心とした小・中学校、PTAなどを活動の場としてきました。メンバーは、日本へやってきた留学生や、日本人と結婚した在外日本人の方、そして、外国で生活をした経験があったり、外国語が堪能な主婦や学生を中心とした日本人など、合わせて五十人ほどで成り立っています。

しかし、外国人を教室へ招き入れるだけで国際交流のめあてがまっとうできたのは過去のこと。しかも、外国人講師が各学校に配置されている横浜市では、「外国人と触れ合う」という目的での活動の場がしだいに閉ざされつつあるのが現状です。

そこで、活動内容を精選する必要があると感じたわたしたちは、発展的学習に活動の場を定めました。例えば、「おおきなかぶ」（ロシアの物語）、「スーホの白い馬」（モンゴルの物語）、「三年とうげ」（韓国の物語）などの国語教材や、社会科学の学習に関連させ、それをふくらませることができるよう国際交流活動しようと考えたのです。

ここでは、その取り組みの実際を、国語科「スーホの白い馬」を例に報告します。

2 「スーホの白い馬」（二下）の発展的学習の実際

発展的な学習の目的は、言うまでもなく「国語科への興味・関心がいつそう高まることをめざす」ことにあります。「スーホの白い馬」に当てはめて言えば、子どもたちに、物語の背景にある豊かな自然やその中で繰り広げられる人々の生活に目を向けてほしい、そして、それらを通して物語をより深く理解してほしいと考えました。

また、この物語は、少年スーホと白馬との心の交流を描きながら馬頭琴の由来を述べています。子どもたちに本物の馬頭琴に触らせたり、その音色を聞かせたりして、物語のイメージをさらに広げてほしいとも考えました。

そこでまず、メインの講師を、モンゴル人留学生の方にお願ひし、わたしはアシスタントとしてサポートに回ることにしました。彼女にモンゴルの民族衣装をまともらしい、子どもたちが物語に入り込みやすい雰囲気を出しました。

発展的な学習とはいえ、教科書教材とは付かず離れずが原則です。そこで、活動の柱として、

○スーホのくらし

○馬頭琴の由来

に焦点を当て、教科書の原典になっている絵本『スーホの白い馬』（福音館書店）の挿絵を使って物語の筋を追いつながら、子どもたちがさらにイメージを広げられるような展開を工夫しました。

クラス全員に見えやすいように拡大した絵本の挿絵を示しながら、筋の展開はアシスタントのわたしが担当し、大切なところやキーワードは、講師のモンゴル語とわたしの日本語でゆつくりと読み合うことにしました。聞き流すだけに終わらないよう、キーワードは大きく模造紙に書き出すなどの配慮をしました。そんな流れの中で、ポイントとなるところに、以下に示すようなさまざまな活動を取り入れました。



モンゴルの民族衣装を着た子どもたち



民族衣装を着て説明をするモンゴル人講師と筆者



モンゴルの高校生に授業をする筆者



実際に馬頭琴を弾くモンゴル人講師

○スーホのくらし

- ・まず、世界地図と、模造紙にかいたアジアの地図で、モンゴルの位置を確認しました。
- ・物語の背景となるモンゴルの広大な自然を感じてもらおうと、写真を何枚も用意しました。風景だけでなく、スーホが追ったであろうたくさんの羊の群れも忘れません。
- ・クイズをいくつも用意し、楽しくモンゴルや遊牧民のくらしについて知ることができるようになりました。
- ・モンゴルの遊びをいくつか紹介しました。国は異なりますが、同じアジアにあるモンゴルと日本には似たような遊びがあることがわかり、文字通り国際交流につながっていききました。
- ・モンゴルの民族衣装を実際に子どもたちにも着てもらい、そこからスーホの生活や気持ちを考えてもらいました。

○馬頭琴の由来

- ・本物の馬頭琴を持参し、子どもたちに見せたり触れさせたりしました。
- ・馬頭琴の紹介に合わせて、その音色を紹介することも欠かせません。「草原のチェロ」と言われる馬頭琴のCDを用意し、楽器の紹介に添えることにしました。
- ・どんな音が出るのか、講師に子どもたちの目の前で馬頭琴を弾いてもらいました。

活動に当たって、子どもたちの興味はこの馬頭琴に集中しました。中には、馬頭琴は、教科書の文中にあるように、馬の骨や皮、すじや毛だけでできているものだと思込んでいた子もいたため、本物の馬頭琴を見て驚いたり、感心したりしていました。

活動全般に要した時間は二単位時間（九十分）。二年生にはちょっと長すぎたかもしれないという反省もありますが、担任の先生方のご協力で成し遂げることができました。

3 活動を振り返って

物語を読むだけでも子どもたちは想像し、イメージを広げることができましたが、それに加えて、当該国の方が写真や実物を持参し、実際に見たり触れたりしての活動はたいへんインパクトの強いものになります。

しかしながら、いくら珍しいモンゴルの情報でも、先に述べたような活動の一つ一つを、何の脈絡もなく思いつきのようによつていったのでは、物語は広がっていきません。

そこで、活動をつなぐ軸として、絵本『スーホの白い馬』を設定し、モンゴル語と日本語で物語の展開を追いつながら活動したことで、子どもたちは自然と物語の世界に入り込み、イメージを広げ、読みを深めることができたのではないかと思います。

事後、子どもたちの感想に目を通してみると、物語のクライマックスである、悲しみの中で馬頭琴を作る主人公の行動に寄せる感想がたくさん集まりました。「もつと、モンゴルの物語を読みたい」「動物と人間の登場するお話を読んでみたい。」などの記述もあり、わたしたちがこの活動で意図していたことが全うされたのではないかと考えました。

4 活動の余話

今年の夏休み、モンゴルの高校で日本語を学ぶ生徒たちに授業をする機会に恵まれました。日本語がまだ十分に身につけていない生徒を相手に、どんな読み物を、どんな形で紹介しようかと考えるに考えて、「かさじぞう」と「おむすびころりん」の二つの民話を選び出し、手製の紙芝居に仕立てました。民話の底に流れている日本人の優しさを伝えたかったのです。

これに対して、いくつかのマスコミからの取材を受けましたが、取材のとき、記者の方々が口々に言った言葉が忘れられません。

「懐かしいなあ。ほくもこの『スーホの白い馬』を勉強したんですよ。」と。

子どもたち一人一人の国語の力を伸ばすには、どんな授業を考えればいいのでしょうか。
ここでのヒントをもとに、明日からの授業にチャレンジしてください。

さあチャレンジ!

子どもを伸ばす国語授業のヒント ③

わかりやすく、

学習の見通しがもてる発問を

前青山学院大学講師 岩崎 保

どの教科においても、教師の発問で授業がスタートします。教師の発問のしかたにも個性があり、用いる言葉の選択、問いかけるときの表情、児童の反応の受け止め方などに教師の人間柄が出ます。児童がその人柄を受け入れ、なおかつ安心して学習を進められるよう、わかりやすく、学習の見通しがもてる発問のあり方を考えなければなりません。

一 活発に学習を進める発問を組み立てるために

1 児童を理解し、信じてはげます発問作り

発問の内容が、クラス全員に的確に伝わり、解決できる自信と意欲を児童にもたせることが重要です。納得できる答えに満足し、学習の継続に喜びを表現したり、個別の支援に笑顔で応えたりする児童の存在が、確かな授業風景になります。

2 学習目標の達成には意図的・継続的な発問を

単元目標に向かって発問計画を設定し、毎時間の課題に沿ってわかりやすい言葉で発問します。昨日の学習の理解が今日の学習の起点となって児童の思考を継続して促し、本時の発問を解決する活力となります。発問してから児童が考える時間を保つよう心がけましょう。そして、机間指導で個別に支援してから、回答を待ちましょう。

3 「確かさ・豊かさ・意見」を求める発問の違い

○「確かさ」を求める発問：叙述の内容と事実関係を明らかにし、もつとも基本的で客観的な内容の理解を確かめます。

(例) 登場人物はだれとだれですか。

・主人公の優しさがわかる文を視写してください。

○「豊かさ」を求める発問：事実関係が明らかになったらその事柄をもとに想像しながら、さらに読み深めます。自分の経験を思い起こしたり、予想したりしながら、想像する楽しさを学習させます。

(例) 主人公が言いたかったことを吹き出しに書きましょう。
・夜道が真っ暗になっています。この人はどんなことを考えて歩いているか、想像したことを話してください。

○「意見」を求める発問：「確かさ」や「豊かさ」の読み取りをもとに、問題意識をもって「意見や考え」を発信させます。自分の考えをまとめ、読解できた喜びを自覚させます。

(例) 主人公の生き方で、あなたがもっとも感動したのはどの場面ですか。その理由も考えて文章にまとめましょう。

・登場人物を選んで、応援する手紙を書きましょう。

二 単元として構成する発問の具体例「四年」ごんぎつね「から」

発問は、常に一問多答でなければなりません。一つの発問により多くの児童が応答できることが望ましい姿です。初めの発問は、全員が答えられるよう、事実を確かめるやさしい発問から始めます。次に、登場人物の心情や人間関係、情景描写の意味づけを思考する少し難しい発問へと進めます。さらに、想像や思考を必要とする発問へと高めていきます。

1 作品の導入部(1の場面)で、叙述を的確に理解して物語に関心をもたせる発問例

(○は発問、cは児童の答え)

○今日は、「ごんぎつね」の1の場面をくわしく読んでいきましょう。この時間のめあては、「ごんは、どんなきつねかを読みとりましょう。」ということですよ。初めに、作者の新美南吉さんは、だからこの話を聞いたのかを確かめておきましょう。

- c 村の茂平というおじいさんから聞いた話です。
- c 新美南吉さんが小さい子どもだったころに聞いたお話です。
- c これは、昔話だと思います。

○昔話だとわかる文章がありますか。

- c 村とかおしろが出てくるからでしょう。
- c 中山のおとの様なんて言っているから、さむらいがいたころの話だと思います。

○そうですね。中山という所の昔話ですね。昔のお話ですから、想像して読むとおもしろくなりませんか。

- c ちょんまげやお歯黒なんて出てきて、おもしろそうだね。
- c それに、「火なわじゅう」なんて昔の鉄砲だよ。
- c もっとあります。登場人物の名前が、「兵十・茂吉・弥助・新兵衛」なんて、昔の人の名前ですよ。

○では、このお話に出てくる「ごん」は、どこに住んでいましたか。

- c 中山から少しはなれた山の中で、しだのいっぱいしげった森の中に住んでいました。

c 森の中にあなをほって住んでいたなんて、頭いいよな。見つかりにくいと思います。

○さて、森のあなの中に住んでいた「ごん」ですが、どんなきつねだったのですか。

- c ひとりぼっちの小ぎつねです。だけど、なんでお父さんやお母さん、兄弟がいないのかな。かわいそうです。
- c ぼくもそう思いました。もし、みんな死んでいたのなら、すごく悲しい話だと思います。

○なるほど、そのことをほかの人はどう思いますか。

- c どこかで迷子になってしまったのかもしれない。
- c 犬か人間に追いかけて森の中へ逃げて、一人ぼっちになったのかもしれないよ。

○いろいろなことが考えられましたね。でも、今は一人で生きていますね。そんな「ごん」はどんなきつねですか。

- c 夜でも昼でも、あたりの村に出て行っただけじゃあばかりする、悪いきつねだと思います。
- c それだけではありません。畑のいもをほり散らしたり、菜種がらに火をつけたら、とうがらしをむしり取ったりするなんて、ひどいと思います。

○そうかあ。いたずらをするわけね。みなさんはどう思いますか。

- c 確かに悪いきつねだけど、何かわけがあるんじゃないかな。
- c わたしもそう思います。一人ぼっちなので、さびしくて、むしゃくしゃしてやったように思います。

c きっと、友達がほしくて、みんなの気をひこうかしらと思う。

◎ところで、63ページの挿絵ですが、「ごん」は何をしていますか。そして、どんなことを考えていると思いますか…

2 物語の展開部（3の場面）で、主人公の心情を豊かに想像させ、物語の切なさを読み味わう発問例

◎今日は、3の場面を「ごんが何回もつぐないをした気持ちを考えよう。（板書）」というめあてで読みます。ここまでに、「ごん」はどんな気持ちでつぐないをしたのですか。

c うなぎのことも、いわしのことも、兵十にすまないと思つてやつたつぐないです。毎日くりや松たけを届けたのも、本当に謝りたかったからだと思います。

c 今は、どうしたらつぐないができるのか、困っているのだと思います。兵十にわかってもらいたかったので、毎日届けたのです。

c いわし屋のことで、盗みはいけないとわかったから、山の食べものを届けたのだと思います。

c 物置の入り口にくりを置いたときは、「ごめんね」と心で言つてそつと出て行つたと思います。

c 5の場面で、届けたものが神様のしわざになったときは、「つまらない」よりも、もっともつと困ってしまったのではないでしょう。



▲四下 P63の挿絵（かすや昌宏／絵）

c 兵十は、火なわじゅうをばたりと取り落としたとき、「ごん、ごめん。知らなかった。もっと早く気づけばよかった。すまない。」と後悔していると思います

◎ありがとう。「ごん」と兵十の両方にみなさんの気持ちや願いがあることがよくわかりました。しっかりと読めましたね。それでは、もう一つ考えてみましょう。「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」というところなのですが、この青い煙をどう思いますか。

c 「ごん」の命が静かに青い空に上がっていくことを表していると思います。それは、青という色があるからです。

c 何か二人の悲しい心がこもっているように思います。細い煙に、二人の気持ちが一つになったことを表しているのではないですか。

c 煙は、新美南吉さんが、その後のことは想像してくださいと読者に言っているように思います。



▲四下 P78・79の挿絵（かすや昌宏／絵）

◎ここまで読んできて感じた気持ちも出てきましたね。

3 終末部（6の場面）で、「ごん」と兵十の心のすれ違いに対する児童の思いや願いを考えさせる発問例

◎では、6の場面で「ごんが兵十に火なわじゅうでうたれたこと」について、みなさんが考えたことを話してください。

c 「ごん」は、最後まで兵十にわかってもらえなかったことを残念に思つたと考えました。それは、「ぐつたりと目をつぶったまま、うなずきました。」というところ、さびしそうに感じたからです。

c 「ごん」は、ばたりとたおれました。」というところで、「やられたな。兵十にわかってもらえなかったのか。くやしいな。」と考えていたように思いました。

c 「ごん」がくりや松たけを持ってきたのを知つていれば、兵十は「ごん」を殺さなくてもよかったと思うので、残念です。

◎「ごん」は、うたれて残念だとか、くやしかったとか考えた人の意見ですね。違う意見の人はいますか。

c わたしは少し違います。「うなずきました。」というのは「わかってくれたからいいよ。」と言っているように感じました。「しかたがないな。」と思っているのかもしれない。

c ぼくは、「ごん」と兵十の両方ともかわいそうだと思います。「ごん」はやさしいきつねに変わったのに兵十にうたれてかわいそうだし、つぐないをしているのが「ごん」だと知らずにうった兵十もかわいそうです。

c 兵十は、おつかあと「ごん」の両方をなくしてしまつて、かわいそうだと思います。

◎みなさんの想像や考えが活発でうれしかったです。友達の意見も参考に、「ごん」と兵十に手紙を書いてみましょう。

三 発問するときの注意事項

発問のしかたによっては、児童がとまどつたり、やる気を失つたりすることがあります。児童の反応に十分注意して、直ちに修正しましょう。

1 センテンスの長い発問：意味がわかりにくく、教師の一方的な授業になりやすい。

2 単発で思いつきのような発問：問いと答えが一問一答式になりやすく、児童の思考の広がりが見られる。

3 児童の答えを復唱する発問：児童の話し合いが成立せず、児童の集中力が下がる。授業時間も不経済です。

4 学習目標につながる発問：児童の応答に引きずられ、どこを学習しているのかわからない発問がこれに当たる。

5 児童に何を期待するか不明な発問：教師の要求が多すぎることで、すべての児童が理解できず意図不明な学習になる。

6 「ほかにありませんか」という発問：教師の期待にそぐわない答えを無視することで、児童はどう答えるか混乱してしまふ。

7 理解しにくい言葉の発問：地域や生活実態にそぐわない言葉、学年の発達に適合しない言葉の使用がこれに当たる。

8 教師が答えを準備している発問：多くの児童が答えを発表しても、教師が答えを板書することになるため、児童の思考と存在を無視した学習に陥りやすい。

漢字字典を使った、言葉を広げる指導 一人一冊 手元に置いて読む・調べる

一徹国語人

言葉を知る。言葉をよく理解して使う。そうすることによって、自分理解も相手理解も、ぐんと深まる。

教科書でも、言葉遊びをはじめ、言葉そのものを学習する場があちこちに設けられるようになった。また、教師たちの側でも、言葉の学習指導についていろいろに工夫しようとする動きが見られるようになった。

今回紹介するのは、一年生のうちから漢字字典を引く学習を定着させようとする先生の授業風景である。その先生は、「言葉と文字の学習を同時に展開すると、その効果は大きくなる」という信念をもって指導されていた。

◆「雨」を練習しましょう。

先生 「今日の漢字はこれ。」と言って、カードに墨書した「雨」を示す。

児童 □々に「あめ・あめ・あめつぷ・あまつぶ」と言う。

先生 「雨」を使ったどんな言葉を知っているかな。」

※多くの児童が挙手。先生が指名する。

「雨水・雨ふり・大雨・雨やどり・雨戸」などが次々に発表される。

先生 「あめ」とも「あま」とも読むんだね。では字典で調べてみましょう。○ページだよ。」

※先生が字典の「1年さくいん」で見つけられることを、児童の机を巡りつつ確認していく。

先生 「筆順が大切だったね。確かめてみましょう。」

※すらすらと書けるまで掌書きをさせ、その後空書き。

先生 「では、ノートに『雨』をていねいに書いて、読み方と言葉（児童が先ほど発表した内容のいくつか）を書いてみましょう。」

※ここで、友達の発表をしつかりと聞けていたかが明確になる。こうした指導を繰り返すと、児童はおのずから友達の発言に耳をかたむけ、内容を聞き分けるようになっていく。

この後に、漢字字典の「雨」の項をめいめいで黙読させ、再度指名音読して、いろいろな漢字の使われ方を理解

させる。この導入に二十分。

さて、これからが本題である。「教科書にのっていない漢字には、どんな成り立ちがあるのか調べてみよう。」と言って、課題の絵文字カードを黒板に提示する。



先生が絵文字カードを示して、「これは何を表していますか。」と聞くと、

「羽があるみたい。」「鳥みたい。」「鳥だよ。」「と児童から声が上がった。先生は、「もともとなった絵と比べてみよう。」「絵文字からどんな漢字ができたんだろうね。」「鳥という漢字はこの鳥の形からできたのね。」と、絵文字の形をヒントに想像させ、「鳥」という漢字に至らせる。同様に、「魚（魚）」「馬（馬）」についても、ものの形の特徴をうまく生かして漢字ができていることに気づかせていく。

ここでも導入時と同様、漢字字典を引かせ、掌書き・空書きをさせる。点画の注意点を確認させた上で、字形を

整えてていねいにノートに書かせる。

さらに、漢字では同じ「灬」がついていても、もともとなっていたものがそれぞれ違うことを、三つの漢字を学んだあとでまとめる。絵文字から字典を使った学習へと進み、ノート記入を済ませて、やはり二十分あまりであった。

「鳥」「魚」「馬」は、二年生の配当漢字で、児童にとって習っていない漢字であるにもかかわらず、どの子も実に熱中していた。

次時への予告は、「次は自分が知っていた漢字の成り立ちを調べてみましょう。」「であつた。児童は、「自分の名前。」「○○ちゃんの名前。」などと□々に言っていた。

一年生がこれだけ自由に喜んで漢字字典を使った学習ができるのであれば、二年生以上ではどのような学習計画を立てることができるか、今この学校ではそれを話し合っているところだと聞いた。

今回お邪魔したのは、神奈川県にある

門沢橋小学校一年一組(三十三名在籍)、参観させていただいたのは、光村図書『こくご一下』の教材「かんじのはなし」に付属させ、七時間かけて展開するオリジナルの学習活動案の一部である。

- 1 教科書の漢字の成り立ちを読みとろう。(二時間)
- 2 いろいろな漢字の成り立ちを知ろう。(二時間)
- 3 漢字の成り立ちのお話をつくろう。(二時間)
- 4 習った漢字を使って文を作ろう。(一時間)

今回の授業は、2の前半で、「教科書にのっている漢字以外の漢字の成り立ちを調べてみよう。」という時間であった。

一徹国語人にご意見・ご質問がある方は、広報部までお便りをお寄せください。一徹国語人がお返事をいたします。お便りは、誌上にて紹介させていただきます。りますので、あらかじめご了承ください。FAX: 03-3493-5483 E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

毎日の授業や子どもとの接し方に悩む若い先生たち。
こんな小さなきっかけから子どもが変わります。

授業の導入は……

京都女子大学教授 よしなが こうし 吉永 幸司

1 発表の勢いが萎える

その授業は、調べたことを発表するところが目標でした。山田くんは、最初に発表することが決まっていたのでしょいか、休み時間のうちから何度も原稿を読み返し、授業の始まりを待っていたのです。チャイムが鳴り、授業を始めるあいさつの後、

「今日は発表でしたね。今日の発表は……。」

という言葉が終わらぬうちに、教壇の方へ進もうとするほどでした。発表に賭ける勢いが伝わってきました。

しかし、勢いを止めるように、「では、発表の前に、前の授業の復習をしましょう。まず、話す時に気をつけることです。次に、聞く時に気をつけることです。」

と、前の授業の復習から始まりました。指導案で計画したようになめらかに進まないで、予定の時間を大幅に超えてしまいました。あまりに長々と続いたものですから、山田くんは集中力を欠いてしまいました。ですから、

「じゃあ、発表は山田くんからですね。どうぞ。」

と指名を受けたときは、渋々発表するようには見えませんでした。待つのに疲れてしまったのでしょう。山田くんの発表に賭ける勢いは見えませんでした。

「前の時間の復習」という活動が、発表しようという意欲や勢いを萎えさせてしまったのです。

2 子どもが目を輝かすとき

授業の導入段階で、「昨日どんな勉強をしましたか。」という働きかけをしていたときのことです。発表をするのが特定の子になっていることに気がつきました。

「昨日の勉強を思い出しましょう。」と働きかけても、挙手する子は数人、しかも、毎時間とも同じ子どもです。では、挙手しない子は分かっているのかというと、そうではないのです。あまり関心がないのです。そのことに気がついて、指導案から、「前時の復習」という活動を省いたことがありました。

と話をして、元気になるのです。

このとき気がついたのは、幼児はその時々の瞬間を、高齢者は過去をエネルギーにしているということでした。つまり、それぞれの世代によって、エネルギーになるものが違うという発見でした。これは、子どもを見る目を変えてくれました。

子どもが関心をもっていることや、日々の会話などを聞いていると、「先週の体育はおもしろかった。」より「次の体育は何をするの？」であり、「昨日の給食」の話題より「明日の献立」を話題にして盛り上がっているのです。子どもは、未来に目を向けています。子どものエネルギーは未来に向いているのです。とりあえず、「この前は」から始める導入は控えましょうと提案したい気持ちです。子どもは、前の時間の成果を未来のエネルギーに変えるたくましさをもっているはずですから。

授業の始め、つまり、導入のときに、「今日は、第二場面の音読から始めましょう。」

「今日の勉強は、物語の山場です。どんな話し合いになるか楽しみですね。」

「授業の終わりには、上手な作文が書けるようになるですよ。」

という言葉から始めたのです。その内容は、これからの学習の方向を示すものであったり、目標の到達状況であったり、ときには、

「昨日の感想を紹介します。この感想は、今日の勉強と関係しますから。」

と前置きをして、授業の方向を示すノートを紹介したりしました。すると、それまでは関心がないように見えていた子が、体を乗り出して話を聞いたり、うなずいたりしたのです。

「昨日は」と「これから勉強するのは」という、ほんの少しの違いですが、勢いが違うのです。

先に述べた山田くんの場合でも、「山田くんは、今日一番に発表だね。いい顔をしている。きつとよい発表になるよ。」

3 子どもは未来

と言つて発表させていたら、きつと張り切つて発表したでしょう。もし発表がうまくいなくても、

「昨日の学習を、しっかり考えなかったからだろうな。」

と、自分から学習の至らないところを振り返り、失敗を力に変えるエネルギーにしていたらどうなるかと思うのです。

少しの期間、民生・児童委員を引き受けて、高齢者や幼児とかかわったことがあります。そのときに学んだことは、幼児は目の前のことに強い関心を示し、高齢者は過去の出来事を話題にするという勢いが生まれる、ということでした。

高齢者に話題を広げようとして、「来月の集まりにいらっしゃいますか。来月の予定は……。」

と言っても、反応はそれほどありません。しかし、

「先月の集いは楽しかったですか。そのときの弁当は……。」

と切り出すと、口の重い人でも生き生き

2 指導計画(全3時間)

- 【目標】 ◎学習したことを、日常生活に生かしていこうという意欲をもつ。
◎「左右」「上下」の組み立て方の原理・原則を理解する。
○「左右」「上下」の組み立て方を確かめて書く。

		学習内容と児童の活動	教師の支援
第1次	「知る」ために書く	1. 漢字パズルをする。(硬筆) 2. 本時のめあてをつかむ。 「字が部分になると、どのように変化するのだろうか。」 3. 予想する。 4. 確かめる。 5. ほかの文字でも確かめる。 6. 原理・原則にしたがって、それぞれの漢字をもう一度書く。(硬筆) 7. まとめとして感想を書く。	・「左右」「上下」それぞれの部分となる漢字を提示して組み立てさせ、学習への意欲を喚起する。 ・組み立てるためには、もとの漢字の字形が変化していることに気づくようにする。 ・「鉄」と「想」について調べさせ、特に「左右」の組み立てでは単純に幅を狭くしているのではなく、原理・原則に基づいて字形が変化していることに気づくよう助言する。
第2次	「解決する」ために書く	1. 試書をする。(毛筆)「情熱」 2. 本時のめあてをつかむ。 「文字の組み立て方に気をつけて書こう。」 3. 基準を確かめる。 4. 練習する。(毛筆) 5. 自己批正・相互批正をする。 6. まとめ書きをする。(毛筆) 7. 感想を書く。	・前時の学習に照らし合わせ、基準の確認をする。 ・毛筆で大きく書くことにより、字形の変化に対する意識を高める。 ・練習用紙を用意しておく。 ・試書とまとめ書きを比べ、学習の成果を確認し満足感を味わえるようにする。
第3次	「応用する」ために書く(本時)	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてをつかむ。 「漢字が部分になるとどのように変化するかを考えて、硬筆で書いてみよう。」 3. 左側の部分になる漢字を、原理・原則に当てはめて書く。(硬筆) 4. 確かめる。 5. 左右の組み立てから成る「漢字探しゲーム」をする。 6. まとめとして感想を書く。	・前時までの学習を振り返ることにより、「左右」の組み立て方を確認する。 ・さまざまな文字に原理・原則が当てはまることを、「金」「言」「糸」「車」「米」「女」「石」「火」「木」「王」「土」「火」で確かめ、「漢字探しゲーム」への意欲づけにする。 ・教科書を使って漢字を探し、「左右」の組み立てから成る漢字の多さに気づき、組み立て方の原理・原則を生かして書くことにより字形が整うことを、楽しみながら学べるようにゲーム化する。

〈評価規準〉

	おおむね満足できる状況	努力を要する児童への手立て
関心意欲態度	○「左右」「上下」から成る漢字の組み立てを理解し、日常の書写活動に生かしていこうという意欲をもっている。	・文字の組み立て方の原理・原則がさまざまな文字に当てはまることを、ゲームを通して体感させる。
知識理解	○「左右」「上下」から成る漢字の組み立て方の原理・原則を理解している。	・多くの漢字を書き、具体的にどのように変化して組み立てられているのかを考えさせる。
技能	○文字の組み立て方に気をつけながら書いている。	・補助線を入れた練習用紙を用意したり、個別指導を行ったりする。

連載 書写の時間を楽しく ③

単元の流れを工夫して、
日常に生きてはたらく力を(六年)

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

アンケートをとってみると、理由はさまざまだが、児童の多くが「正しく整った文字を書きたい、書けるようになりたい」という気持ちをもっていることがわかる。パソコンの普及によって手書き文字を書く機会が少なくなってきたはいるが、やはり自分の手で文字を書くことは大切であり、「整った文字を書きたい」という気持ちは変わらないのである。児童の願いに応える授業を展開したい。

とはいえ、書写の時間は限られている。その中で、児童に書写の力をつけるためには、文字の書き方の原理・原則を理解させ、ほかの文字にも応用できるように指導しなければならぬと考える。書写の時間の中で、ある文字だけを正しく整えて書けるようになったとしても、それが日常に生かされなければ「生きてはたらく力」とはならない。

今回の授業は、六年生の「文字の組み立て方」の学習である。これまでに児童は、三年生で硬筆、四年生以降は毛筆で、

文字の組み立て方について学習してきたが、「書写の授業は、先生が朱を入れて直してくれたものを練習する時間」という意識がまだまだあるようだ。そこで今回は、文字の組み立て方のまとめとして、これまでに学習したことを確認し、日常化を図ることをねらった。

そのために、児童が文字の書き方の原理・原則を発見し、「教材」を通してそれを確認しながら書き、さらにほかの文字にも応用(日常化)できるように授業を組んでみたい。そして、児童が、「書写の授業は、文字を書くときのきまりを学ぶ時間」だと感じられるような単元構成をしたいと考えた。

○単元構成のポイント

指導計画のとおり、「硬(知識の確認)→毛(知識の技能化)→硬(知識の応用)」の流れをとった。まず硬筆で「左右」「上下」の文字の組み立て方を理解し、毛筆で取り立て学習をすることでより意識を高め、それをまた硬筆で書くことにより学習したことを広げていく。この流れで、学んだことを日常化することをさらに意識させたい。

また、それぞれの時間で、児童が主体的に課題を見つけ、解決のために活動できるよう、ワークシートや練習用紙を工夫していきたい。さらに、「知識の応用」の部分でゲーム化することにより、意欲的に活動できるよう考えた。ゲームでは、グループで競わせたり、ポイントのつけ方を工夫したりするなどして、原理・原則を生かして書くことをしっかり意識させたい。また、ポイントをつける際に相互評価を取り入れることで、文字を見る目も養っていくことができればと考える。

4 学習を通しての児童の感想

○「ほくが「左右」の組み立てで氣をつけたことは、右上がり**を強くすることと中心の画を右寄りにすることです。「情熱」は、組み立て方が難しかったです。この学習をして、これからノートを書くときにも、習ったように書きたいと思いました。**」

○漢字の組み立ての勉強をして、組み立て方や正しい漢字の書き方がよくわかりました。漢字の組み立てがこんなに奥が深いとは思いませんでした。

○今までは、組み立て方を全然気にしないで書いていました。今では、右側を切り取った形にしたり、右上がりになるように気をつけて書いています。はじめに「情熱」と書いたときより、今のほうがよくなっていると思います。これから組み立て方に気をつけて書いていきたいです。

○文字の組み立て方を勉強して、いろいろな漢字の組み立て方がわかってよかったです。それに氣をつけて書くと、とても形よく書けてびっくりです。

【授業を参観した同僚から】

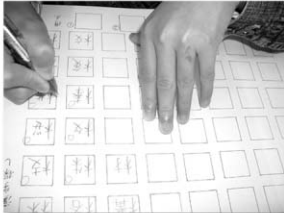
○教材文字に限定されることが多い書写学習ですが、本時は左右の組み立て方の原理・原則を確認し、漢字探しゲームを取り入れたことで児童の文字に対する興味・関心の高まりが見られました。どのグループも意欲的に漢字を探し、字形に注意して、ワークシートに記入していました。ワークシートには、偏の部分の中心画の位置がわかるように点線を入れてありました。児童はあまり意識していないようでした。文字の組み立ての原理・原則を理解させることは、日常の書写活動への応用・発展につながる大切な学習であり、継続して指

3 本時の展開

【単元名】文字の組み立てを考えよう(3時間扱い)

【本 時】3/3

【ねらい】○左右の組み立てから成る漢字の原理・原則を考えながら硬筆で書き、学習したことを今後も生かしていこうとする意欲をもつ。

主な活動・指導上の留意点と支援(○)	配分・形態	学習の様子
1. 前時までの学習を振り返る。 「鉄」 - 原理・原則に従って書いたものと、そうでないものを並べ、その中から正しいものを選ぶ問題を解く。 2. めあてをつかむ。 漢字がほかの漢字の部分になるとどのように変化するのかを考えて、硬筆で書いてみよう。 3. 左側の部分になる漢字を、原理・原則に当てはめて書いてみる。 「金」「言」「糸」「車」「米」 「女」「石」 「火」「木」 「日」「王」「土」 ○これまで考えてきた形の変化だけでなく、幅や位置についても考えられるよう、ワークシートを工夫する。 4. 確かめる。 - それぞれの部分になったときの形、幅、位置を確認し、再度書く。 ○「中心画が中央寄りになる」という点は難しいようなので、特に注意させる。(ワークシートに点線を入れておく。) 5. 左右の組み立てから成る漢字探しのゲームをする。 ○「3」で使った漢字をカードにしておき、班ごとにカードを引いて、それを部分にもつ漢字を探す。 ○漢字を見つげられたこと、それを原理・原則に基づいて書くことができたことのそれぞれにポイントを与えることにより、組み立てを意識させるようにする。 ○採点を互いに行うことで、原理・原則を再確認できるようにする。 6. まとめをし、感想を書く。 ○学習漢字の中には、「左右」の組み立てから成るものが450以上あることを伝え、組み立て方の原理・原則が応用できることを伝える。	(個別) 5分 (一斉) 3分 (個別) 5分 (一斉) 7分 (班) 15分 (個別) 10分	▼「鉄」を並べたカードで原理・原則を確認する児童  使用したワークシート▶  ◀ ワークシートを拡大した掲示例  教科書を使って漢字を探す児童▶  ◀ 採点をする児童 

5 成果と課題

導していかなければならないと再確認した授業でした。

はじめに硬筆を取り上げたことで、自分が日ごろ書いている文字を見つめ直すことができ、学習への必要感が高まったと考える。ただ書くだけではなく、文字を書くときの原理・原則を知識として身につけ、それを技能と結びつけて応用することができることを体験できれば、日常化にもつながると考える。また、授業にゲームを取り入れたことにより、知識が応用できることを楽しく体験することができたと思う。

児童の感想には、上記のように、これからの書写活動に生かしていきたいというものが多く見られた。技能としてはまだまだ不十分な点が多いので、この気持ちを持続させながら、書写の授業だけでなく、新出漢字の学習などで、折に触れ、組み立て方について意識させていかなければならないだろう。

今回は六年生の授業であったが、最初に毛筆で組み立て方を学ぶ四年生で実施することも考えてみたい。

児童は「書写の授業を『おもしろい』と感じるはずだ。授業で学習した知識や技能が、すぐに書き文字に反映されるからである。しかし、学習内容や技能を定着させたり、日常に生かしたりするには、仕掛けが必要となる。本実践では、字形の原理・原則について、「知識の確認・技能化・応用」とに分けて単元の流れを工夫し、最後にゲームで締めくくって知識・技能の定着と応用を図るなど、単元目標の達成に向かってさまざまな仕掛けや工夫が施されている。本授業を通して、児童達は「何ができたか」ではなく、「何がわかったか、わかったことをこれからどう生かせばよいか」を理解したのである。そして「書写の授業っておもしろい!」と感じたに違いない。(M)

連載 書写ってこんなにもおもしろい！ ②②

書写の要素

字形：内外の組み立て方のポイント④

山梨大学教授 宮澤 正明

今回も内外の組み立て方で、二方向を囲むように（繞「まとう・とりまく」などの意味）を取り上げます。

■二方向を囲むように

道延起魅題

二方向を囲むには、しんによる（しん）、えんによる（えん）、そうによる（走）、きによる（鬼）、ばくによる（麦）などがあります。また、ようにして部首にはなっていないが、「題」もように同じ構造の漢字です（仮に、「ぜ」による（是）」ということもあります）。中でも、しんによる漢字は、常用漢字では五〇字、小学校学年別漢字配当表では二五字を数え、「道・遠・近」など、日常的に使用頻度が高い漢字が多くあります。

aは、しんによる三画目の送筆の方向が、bは、最後の右払いの方向や筆使いが不適切です。

このように、しんによる字形の乱れは、さまざまな形で出現します。しんによる乗る部分の位置、しんによる形、特に二画目の方向に不適切な書き方が目立つようです。

次に、適切で整ったしんによる字形を書くためのポイントを図解して示しましょう。

①乗る部分は、全体の中心よりやや右に位置づける。（乗る部分を縦三等分した場合、左三分の一に分けた線が全体の中心線に相当する。）



②しんによる右払いの上部に余白ができることを想定して、乗る部分の大きさに注意する。



③しんによる一画目の点の位置は、乗る部分の頭部の点画の方向によってある程度決定する。頭部が横画の場合（辺・返など）はそれより上に、斜めの点画の場合（送・近など）は同じ高さに、縦画の場合（速・遠など）はそれより下にそれぞれ位置づける。

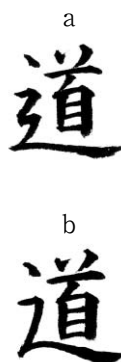
しかし、しんによる漢字を整えて書くのは非常に難しいようで、整った字形には残念ながらあまり出会えません。加えて、最近の傾向として、書き文字としてのしんによる不適切な形が多く見られるのも注意しなくてはなりません。

そこで、ここでは、しんの中で最も字数が多く、問題点を抱えているしんによる中心に述べてみます。まずは、出現しやすい不適切なしんによる字形を次に示しましょう。

〈しんによる乗る部分の位置が不適切な例〉



aは、乗る部分が中心から完全にはずれています。bは、しんによるからはみ出してあたかも荷台から落ちそうな字形です。〈しんによる二画目の方向や形が不適切な例〉



aは、しんによる二画目の方向や折れの筆使いが不適切です。bは、明朝体のデザインと同じ形に書かれています。〈しんによる三画目の方向や筆使いが不適切な例〉



横画の場合

斜めの画の場合

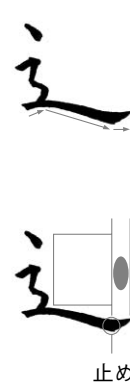
縦画の場合



④しんによる二画目は、折れの筆使いに注意しながら横↓縦↓右下↓左下と動き、終筆は左下に払う。活字の形とは異なるので注意する。



⑤しんによる三画目は、二画目の左端よりやや内側から書き始め、右上↓右下（二〇〜二五度）↓右払いの三つに分けた方向で書く。終筆の右払いの止める位置は上部の右端の真下で止めてから払う。



しんによる組み立て方が理解できれば、ほかのしんによる同じ要領で組み立てること字形が整います。なお、しんによるえんによる後から書くようですが、画数の多いしんによるきによるなどは、先に書きます。これらの筆順の誤りも多く見られるので、グループ別にして覚えるたいものです。

「光村の本」 好評発売中！

大人の本の作家と子どもの本の作家が交流する。バトルする。新しい書き手が参加する。挑戦する。児童文学の冒険、ふたたび！

	書 名		本体価格	定価	判型
	飛ぶ教室	2007冬 8号 (2007年1月発売予定)	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006秋 7号 ほぼ まるごと一冊 長新太 (最新刊)	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006夏 6号 プーの森で語り明かそう	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006春 5号 創刊一周年! 創作特集号	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006冬 4号 トーベ・ヤンソンのもうひとつの顔	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2005秋 3号 神沢利子の世界	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2005夏 2号 少女小説の知的なくらみ	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2005春 1号 復刊特別号	952	1,000	B5変
	年4回 (1・4・7・10月) 発売				

日本文藝家協会編。人生の機微に触れる珠玉のエッセイ・アンソロジー！

	書 名		本体価格	定価	判型
	ベスト・エッセイ 2006	意地悪な人 (最新刊)	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2005	成り行きにまかせて	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2004	犬のため息	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2003	花祭りとパーミヤンの大仏	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2002	落葉の坂道	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2001	新茶とアカシア	1,900	1,995	四六判
	ベスト・エッセイ 2000	歌のいろいろ	1,900	1,995	四六判
	ベスト・エッセイ 99	花のともだち木のともだち	1,900	1,995	四六判
	ベスト・エッセイ 98	夜となく昼となく	1,900	1,995	四六判
	ベスト・エッセイ 97	待ち遠しい春	1,900	1,995	四六判

小学生のための英語テキスト。英語を使ったコミュニケーションの楽しさを、子どもたちと一緒に実感してください。

	書 名		本体価格	定価	判型
	JUNIOR COLUMBUS 21	児童用テキストBOOK1 (3・4年用)	524	550	B5判
	JUNIOR COLUMBUS 21	児童用テキストBOOK2 (5・6年用)	524	550	B5判
	JUNIOR COLUMBUS 21	指導書BOOK1 (CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判
	JUNIOR COLUMBUS 21	指導書BOOK2 (CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判

中国人学習者のための総合日本語テキストの決定版！

光村図書・人民教育出版社共同編集				
書 名		本体価格	定価	判型
新版中日交流 標準日本語	初級上下巻セット (分売不可)	4,000	4,200	B5判
新版中日交流 標準日本語	初級CD (6枚組み)	3,000	3,150	—
中日交流 標準日本語	中級上	1,800	1,890	A5判
中日交流 標準日本語	中級下	1,800	1,890	A5判
中日交流 標準日本語	会話編	1,500	1,575	A5判
中日交流 初級 標準日本語	会話編発音部 カセット (全1巻)	700	735	—
中日交流 初級 標準日本語	会話編会話部 カセット (全3巻)	2,100	2,205	—
中日交流 初級 標準日本語	会話編語彙部 カセット (全4巻)	2,800	2,940	—

光村の好評ロングセラー。国語教育の至宝と三巨匠の画集。

	書 名		本体価格	定価	判型
	近代国語教育論体系	全20巻	172,816	181,457	菊判
	近代国語教育論体系	増補5巻	43,205	45,365	菊判
	続・国語教材の読み方読ませ方	井上敏夫著	1,500	1,575	B6判
	説明的文章の読み方読ませ方	井上敏夫著	1,942	2,039	B6判
	授業開きの構造	安居總子著	2,200	2,310	四六判
	小林古徑 作品と素描		90,000	94,500	B4判
	坂本繁二郎 水彩画集		25,000	26,250	B4変
	福田平八郎 作品と素描		95,000	99,750	B4判

●全国の書店および、弊社HP (光村チャンネル <http://www.mitsumura-tosho.co.jp> からオンラインショッピングをクリック) にてお求めいただけます。

小中一貫教育の先駆的な教育特区品川区と国語の光村図書が共同開発・編集。

漢字ステージ100

品川区小中一貫教育 国語科

全3巻：1・2年生 3・4年生 5・6・7年生 (8・9年生)

定価 各950円 (本体905円) B5判横 平均130頁

楽しく学べる工夫がいっぱい。

- 常用漢字1945字を3分冊で学習できます。
- 光村の国語教科書のキャラクター (カンジー博士) や、漢字の手書き文字、教科書体を使うことで、教科書との一貫性を図っています。



著者自ら小学校・中学校・高等学校の現場で授業した経験が生きる。授業をもう一段深めるのに役立つ理論。

名詩の世界

西郷文芸学入門講座 (全7巻) 西郷竹彦 著 A5判並製

名詩の世界	第1巻	文芸の構造 視点と対象・形象の相関	本体価格	定 価
名詩の世界	第2巻	ことばの芸術 言語・文法をふまえて	2,095円	2,200円
名詩の世界	第3巻	題材と主題 詩の形・比喩の本質	2,381円	2,500円
名詩の世界	第4巻	比較【類比・対比】 典型と比喩について	2,095円	2,200円
名詩の世界	第5巻	虚構の方法・世界 展開法と層序法と折衷法	2,381円	2,500円
名詩の世界	第6巻	文芸学の筋論 表記の表現性・形象性	2,095円	2,200円
名詩の世界	第7巻	文芸の美と真 ファンタジー・条件・縁起	2,381円	2,500円



教科書で習ったあのなつかしい作品が、今よみがえる。

光村ライブラリー・中学校編

- 昭和30年から平成14年までに国語教科書に掲載された時代を超えて心に響く、感動の71作品。
- 全5巻—文学 (3巻)・説明文 (1巻)・詩 (1巻)
- 読みの抵抗が少ない—常用漢字は、すべてルビ付き。

セット定価 5,250円 (本体5,000円)
各巻定価 1,050円 (本体1,000円)
菊判上製 各巻平均120頁



光村ライブラリー

- 光村図書の小学校国語教科書の中から、118作品を一挙収録。
- 昭和46年から平成12年までの教科書から精選。
- 教科書収録時の学年に基づき、低・中・高学年別に編集。
- 学年の配当漢字にふりがなを付け、読みやすさに配慮。

セット定価 18,900円 (本体18,000円)
各巻定価 1,050円 (本体1,000円)
菊判上製 各巻平均80頁





光村チャンネルからのお知らせ

授業に役立つ情報が満載！ホームページ「光村 チャンネル」をご活用ください！



まずはトップページへアクセス！
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

情報BOX

年間指導計画・評価計画資料のダウンロードや研究会情報の検索ができます。授業に役立つリンク集も充実！

光村コミュニティー【会員専用】

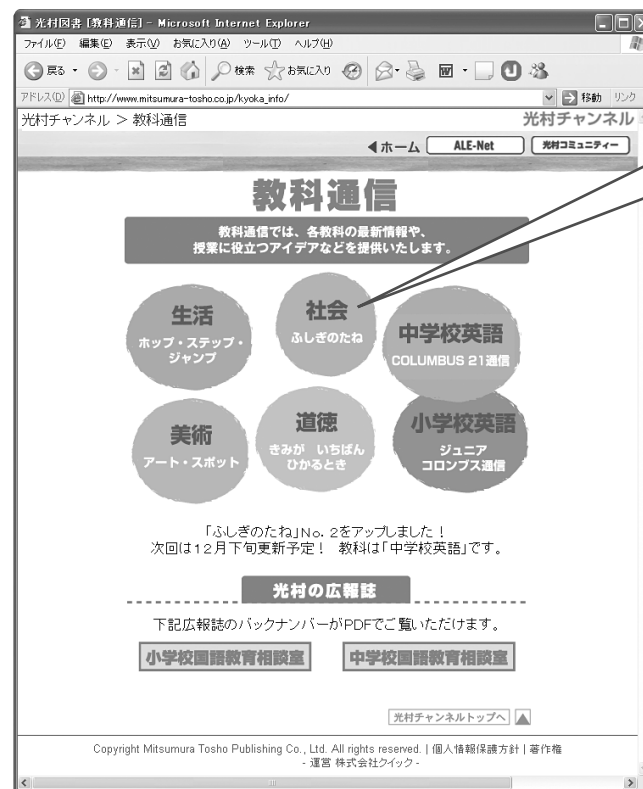
先生やそれに準ずる方の交流や研究をサポートする会員専用ページです。資料や情報が盛りだくさん！この機会にぜひご登録ください！（会員登録・ご利用は無料です）

光村ブックランド

子どもたちの読書を応援するページです。大人から子どもまで、多くの方に向けてバラエティーに富んだコーナーをご用意しました！

教科通信

生活・社会の情報を配信中！
国語教育相談室のバックナンバーも、こちらでご覧いただけます。



教科の部屋

国語だけでなく、書写、生活、社会、道徳、小学校英語の部屋があります。授業に役立つアイデアや教科書に関する内容など、先生方をサポートする情報が満載！





お知らせ

【研究会のご案内】

■第四十二回 全国国語科教育研究大会 ―東京（新宿）大会―

開催日 平成十九年一月十九日（金）

会場 新宿区立鶴巻小学校

テーマ 伝え合う技と心を磨き育てる授業創造

〈基礎学習→基本学習→統合学習で

「生きて働く国語力」を身に付ける〉

講演 「人生の心得・人間の磨き方」

鍵山秀三郎氏（イエローハット相談役）

「学力向上を支える国語科教育」

〈生きて働く国語力を育てる〉

瀬川榮志先生（中京女子大学名誉教授）

「言葉と音楽の世界」〜ピアノ&トーク

福田直樹氏（ピアノリスト）

参加費 二〇〇〇円（資料代含む）

連絡先 大会事務局（武蔵村山市立第三小学校 川畑庄二）

〒二〇八・〇〇〇一 武蔵村山市中藤一・三六・一

TEL 〇四一（五六二）一七五三

FAX 〇四一（五六二）九三二七

■第五十二回 全国国語教育研究大会

開催日 平成十九年二月二日（金）〜三日（土）

会場 京都市立伏見住吉小学校 京都市立光徳小学校

京都市総合教育センター

テーマ ゆたかな人間性につながる国語力の育成（3）

〈基礎・基本の力を培う授業の構築〉

内容 研究報告／公開授業／研究協議会（二月二日）

講演（二月三日）

講演 「新しい学習指導要領の動向 〈読解力を伸ばす指導〉」

井上一郎先生（文部科学省教科調査官）

「物語が生まれるとき」

富安陽子氏（児童文学作家）

参加費 三五〇〇円

連絡先 京都市立光徳小学校

〒六〇〇・八八一 京都市下京区中堂寺坊町二六・一

TEL 〇七五（八四一）三九九二

FAX 〇七五（八四一）三九八七

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kotoku-s/>

編集後記

「国語教育相談室59号」では、「編集部からのお願い」として、指導書に対するアンケートのページを設けました。教科書をより有効に活用いただけよう、先生方からの声を、ぜひ次回の指導書編集の骨子にしていきたいと考えます。記述式の回答が多く、お手数とは存じますが、ぜひご協力ください。

「国語教育相談室」が内容を一新して、最初の一年が過ぎようとしています。57号から巻末に置いたアンケートにも、多くの先生からお返事をいただきました。この場でお礼申し上げます。次号からも、みなさんのご要望をもとに、子どもたちとの交流や日常のご指導に活用いただける情報を積極的に取り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

■東京学芸大学附属小金井小学校 平成十八年度研究発表会

開催日 平成十九年二月九日（金）

テーマ 実感と創造性のある学びを育む

〈「子どもの論理」をひろげる授業〉

内容 公開授業／全体発表／教科別分科会／講演

講演 「子どもの脳と創造性」

茂木健一郎氏（脳科学者）

参加費 三〇〇〇円

連絡先 東京学芸大学附属小金井小学校

〒八一四・八五〇一 小金井市貫井北町四・二・一

TEL 〇四一（三三九）七八二三

FAX 〇四一（三三九）七八二六

E-mail: nadesiko@u-gakugei.ac.jp

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~kanesy/o/index.html>

平成17年度版小学校国語教授用ソフト 大好評 絶賛発売中!!



光村「国語デジタル教科書」は、
プロジェクトなどの教材提示装置用に
開発された一斉学習のためのソフトウェアです。
全員で同じ画面を見ながら学習することで、
授業に一体感が生まれます。

光村国語デジタル教科書 1~6年

Windows® 版

学校フリーライセンス価格：各学年 52,500 円(本体 50,000 円)
※「学校フリーライセンス」は、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。



「実践活用ガイド」が新しくなりました!
体験版と併せてただいま配布中です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

※Windows®は、米国マイクロソフト社の登録商標です。

光村図書

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
TEL 03-3493-2111 (代表) 03-3493-4742 (直通) FAX 03-3493-5483
E-mail digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

アンケートのお願い

みなさんのお声を、今後の広報誌編集の参考にさせていただきたいと思います。
下記アンケートにご記入のうえ、弊社広報部までお寄せください。

Q1 今号で関心をもたれた記事、役に立った記事はなんですか。

Q2 国語教育全般の中で、今ご関心のある話題や人物があれば、お聞かせください。

Q3 「国語教育相談室」に対するご意見・ご要望があれば、お聞かせください。

●差し支えない範囲でお答えください。

性別 ☐ 男性 ☐ 女性 年齢 () 歳
勤務先 ☐ 小学校 ☐ 中学校 ☐ 教育委員会 ☐ その他 ()
学校名・教育委員会名 ()

●「国語教育相談室」の個人宛送付とメールマガジン配信をご希望の方は、送付先をご記入ください。
次号より送付いたします。(無料)

☐ 「国語教育相談室」送付希望 (☐ 小学校版 ☐ 中学校版)

お名前: _____

ご住所: 〒 _____

☐ メールマガジン配信希望 メールアドレス: _____

ご協力ありがとうございました。

【送付先】光村図書出版株式会社 広報部 FAX: 03-3493-5483

2007/1/S59

※弊社ホームページ「光村チャンネル」<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>「教科通信」のコーナーからも、アンケートにお答えいただけます。
※お預かりしました個人情報については、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切に管理・保護いたします。
※お寄せいただいたご意見は、誌上に掲載させていただくことがあります。

キ
リ
ト
リ
線